

第5回伊達市教育振興基本計画策定委員会
(学校教育部会)
会 議 録

伊 達 市 教 育 委 員 会

審 議 会 会 議 録

会議名称	第5回伊達市教育振興基本計画策定委員会		
議 題	(1) 提言書案について (2) その他		
開催日時	平成29年11月16日 (木) 18時30分～19時10分		
場 所	市民活動センター 多目的室2・3		
出席委員	池田茂樹 委員、大家利基 委員、小倉 拓 委員、小畑次男 委員 小西朱弓 委員、竹村幸雄 委員、成田浩司 委員、万代 淳 委員 (計8名)		
	所管部課名	教育部学校教育課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	1人
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

【会議の概要】

1. 開会 (事務局：企画総務係長)
2. 部会長挨拶 (万代部会長)
3. 議題
 - (1) 提言書案について
 - 【資料に基づき事務局から説明】
 - 【質疑・意見交換】別紙のとおり
 - (2) その他
4. 閉会

開 会 （18時30分）

◎上山企画総務係長

ただいまから、第5回 伊達市教育振興基本計画策定委員会 学校教育部会の会議を開催いたします。さっそく、万代部会長からご挨拶をいただいたのち、会議の進行をお願いいたします。

◎万代部会長

大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。前回までは事務局が用意した議題についてみなさんからご意見をいただき、今日は素案という形ですが、提言をまとめる段階となりました。提言書案の内容を審議したいと思いますので活発なご意見をよろしくをお願いいたします。

それでは、本日の議題に入る前に、前回の部会での内容を確認したいと思いますので、事務局からお願いします。

◎永井指導室参事

「(1) 地域総がかりの教育の推進」については、コミュニティスクールを軸とした地域総がかりの教育を推進したいということに次期計画に掲載していくこと、目標設定については、地域総がかりの教育の推進していくこと自体が目標となりますことから、数値として設定することが馴染まないことをご了承いただきました。また、成果指標については、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に「よく参加してくれる」、「参加してくれる」と答えた学校の割合が毎年度増えていくということに成果指標として設定する旨をご了承いただきました。

質問として、「教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見が述べることができる」ことについての解釈に関することがありましたが、教員評価ではなく、子どもたちの教育環境充実のための前向きな意見である旨を説明申し上げました。

「(2) ふるさと創生教育の推進」については、地域人材や副読本を活用して、伊達市の歴史風土や伝統をはじめとしたふるさと創生教育を継続していくことを次期計画に登載し、目標設定は数値での設定することが馴染まない旨、成果指標については、地域人材を活用した授業をすべての学校で実施していくこととする旨をご了承いただきました。

また、キャリア教育の観点からも、ふるさと創生教育については、子どもたちは将来的には地域で力を発揮していく人材であるため、子どもたちの発達段階に応じた本市ならではのふるさと創生教育の充実や、主権者教育の観点も含め検討することの必要性についてご意見を頂戴いたしました。今後、伊達市の歴史、風土、伝統、産業などを系統的に学ぶふるさと創生教育の展開などの可能性について、提言において整理してまいりたいと思います。

「(3) 異校種間の連携・接続の推進」については、異校種間の連携・接続の推進については、中1ギャップ等を考慮し、円滑な接続の取り組みについて、次期計画に登載し、また、目標としては、教科に関する目標設定など教育課程に関する交流を継続して行うこと、成果指標として、近隣等の学校と教員同士の交流を行っている学校の割合を小中とも100%とすることとする旨をご了承いただきました。

◎三浦学校教育課長

「(4) 幼児教育の充実」ですが、これについては、幼稚園、保育所と小学校及び中学校との交流促進を図ることが、来年度から施行される学習指導要領でも求められていること。

そのため、これまで以上に幼・保・小・中の交流を実施したいと考えていることから、「(仮称) 幼・保・小・中連携会議」といった仕組みを検討しているという説明をいたしました。

これに対して、この「幼・保・小・中連携会議」はいつから開催するのか、というご質問がありましたが、これについては、可能な限り早期にこの会議を立ち上げ、まずは形を構築したいという回答をさせていただきました。

このほか、最近の子どもたちは公園で遊ぶことが難しくなっており、昔のように公園などで遊ばせてやれないか、といったご意見もあり、これについては安全意識の高まりという社会的な背景があるといったご意見のほか、部会長からは、「生活体験やアクティブラーニングを通して学ぶという幼児教育の基本」という部分に関係するご意見なので、提言のなかで、目標設定や成果指標といったかたちでまとめられないか、との発言もいただきました。

これに対しましては、これまでの部会の会議では目標設定や成果指標についても話題にはさせていただいたものの、提言では具体的な目標や成果指標については触れない形をとりたいということ。

ただし、次の段階で策定する次期計画では、部会での議論も踏まえて、目標設定や成果指標を設定したいという回答をさせていただきましたので、実際に計画を策定する際には、可能な限りご意見のあった内容は盛り込みたいと考えております。

次に、「(5) 教職員の資質・能力の向上」ですが、これについては、団塊世代の大量退職によって、ベテラン教職員による若手教職員に対する指導機会の減少や、学校によっては年齢バランスが崩れていることや、ミドルリーダーの育成が課題になっており、効果的な校内研修に支障が生じる場合もあり得るといった現状を説明いたしました。

次期計画においては、管理職も含めて幅広い世代が参集する研修を継続的に開催するといったことを盛り込み、この研修会への参加率を、計画最終年度には80%にすることを目標設定したいということを説明いたしました。

これに対して、目標とする80%の根拠についてご質問がありましたが、この数字については、研修会は日程確保の関係から夏季休業中に開催することが多いのですが、この時期は中体連の大会とも日程が重なることから、100%の目標設定は不可能であり、80%という数字をとりあえず考えたという回答をさせていただきました。

最後に、「(6) その他」のなかで、現在の市立図書館が、他の町の図書館と比較して小さく、蔵書数が少ない、環境がよくないといったご意見をいただきました。

図書館については、社会教育部会でも同様のご意見・ご指摘があったということや、昨年度には「図書館あり方検討会」からの提言も受けていることから、今後、施設の整備も含めて本格的に検討を深めていくことになると思われまますという回答をさせていただきました。

◎万代部会長

ただいま事務局から前回の会議の内容確認がありましたが、よろしいでしょうか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、「(1) 提言書案」について事務局から説明をお願いいたします。

◎三浦学校教育課長

「(1) 提言書案」につきましては、先日会議の案内に同封し送付させていただいたこと、

また、案についてひとつひとつのテーマについて説明を加えていきますと、大変時間がかかってしまうということから、個別の説明については省略させていただきます。今後の提言書のまとめ方については、本日学校教育部会としての提言案をまとめた後、来年1月に予定しております全体会議にて、学校教育部会、社会教育部会が各々作成した提言を見ていただきながら、提言の内容についてご協議いただき、最終的には来年2月頃に提言書を決定し、その後、教育長に対して提言書の提出を行いたいと考えております。本日この後協議していただく提言書の内容については、いままでの会議の内容を踏まえ作成しているため、大きな変更、誤りについてはないと思われませんが、細かい部分での文言、言い回しについてのご意見はあると思います。この部分につきましては最終的に事務局で精査していきたいと思しますので、事務局、部会長に一任してもらえればと考えております。そのため、本日の提言書案につきましては、総論としてのご意見をいただきたいと思っております。

また、みなさまにお配りした提言書案につきましては、みなさまからご意見ご質問をいただいたことにより提言に反映させた箇所にアンダーラインを引いております。ご確認ください。

◎万代部会長

提言書については、これまでの部会での協議を踏まえた内容で事務局が作成したということですが。

テーマを1件ずつ議題にすると相当時間がかかりますので、全体を通してご意見やご質問をお願いいたします。

◎小倉委員

「2. 特別支援教育」についてですが、「しかしながら、通常学級のなかには、障がいがあると診断されている児童・生徒が在籍しているケースや障がい疑われる児童・生徒が在籍しているといった課題もみられます」という文章について、世界的にソーシャルインクルージョンという考え方がスタンダードになっている現代社会では、一部から差別と捉えられてしまう可能性もあり、内容を精査したほうがよいかと思っております。

◎万代部会長

普通学級のなかにだれも気が付かないまま発達障がいなどの障がい児が存在していたとなれば、問題となりますが、保護者の希望があり、なおかつ、学校に障がい者を受け入れる措置があるという前提のもと、障がい児も普通学級にふくめて、ともに学び育ちましようというインクルージブ教育は5、6年前からいわれてきています。そのため、今回の文言は障がい児が普通教室にいることが問題と見えるため修正が必要かと思っております。その点いかがでしょうか。

◎櫻井参与

インクルージブ教育、共生社会、一人ひとりの多様性を認めていこうという社会の中で、小倉委員、部会長のご意見はごもっともだと思います。市教育委員会としては、子どもたちにとってふさわしい教育の場というものを提供できるよう検討し特別支援教育の充実に努めていきたいと思っております。ご指摘いただいた文章表現は修正したいと思っております。

◎万代部会長

障がいのある子どもたちが普通教室にいることが問題であるという趣旨ではなく、その子の障がい等にあわせた教育の場を提供できるよう努めていきたいということ、また、特別支援教育とは、障がいのある子の教育であると同時に、その子たちを障がいのない子たちがどのように接していくのか、どのようにサポートしていくかなど、障がいのある子ども

もたちだけの教育の場でないと思いますので、うまくこの辺を整理していただければと思います。

細かい文言の修正になるかもしれませんが、このテーマの冒頭部分「本市の特別支援教育は、各校の特別支援コーディネーターを中心に児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた個別の教育支援計画を作成し、充実に努めております。」について、「何の」充実に努めるのか明記したほうがよいかと思います。

ほかにご意見はございますか。

◎池田委員

「4. 情報教育」について、「単に情報活用の実践力や科学的な理解だけでなく、情報社会に参画する態度の育成、いわゆる「情報モラル」を育成することが子どもたちにとって最も大切であることは明らかです。」とあるが、「態度の教育」では違和感があるので、「姿勢の教育」に修正すべきではないでしょうか。

◎櫻井参与

国でこの言葉を使用する際、「態度の教育」と示されることが多いため、この表現にしてあります。文章の違和感をなくすため、「態度の教育」ではなく、「態度、いわゆる～」と少し文章を修正したいと思います。

◎万代部会長

いわゆる行政的な文章表現なのかと思います。行政という点で、「9. 生徒指導・教育相談」の「ボランティアの高齢化という課題もありますが、人生経験が豊富なボランティアの対応が子どもたちにとって効果的であるという側面もあることから、行政はボランティアに対して必要な支援を今後も継続するほか、スクールソーシャルワーカーの配置など、より多面的な支援策を検討することが必要です。」の行政とは、教育委員会を指すのでしょうか。

◎三浦学校教育課長

はい、教育委員会が主体となって行っていきます。

◎万代部会長

ほかにご質問ご意見はございますか。

◎竹村委員

「8. 道徳教育」について、文章の中に「ボランティア活動、自然体験活動、地域行事への参加などの体験を充実すること」とありますが、具体的にどんなことが考えられますか。

◎櫻井参与

ボランティア活動ですと、「まちの美化活動」、自然体験活動ですと、「遠足」、「宿泊学習」、学校の地域によっては「川の学習」、地域行事への参加ですと、「お祭り」具体的には「武者まつり」などが考えられます。そのなかで、いまの子どもたちが通常の生活では体験できないことを体験してもらい、自然がどうなっているものなのか、なぜそのような行事を行うのかなど学んだり感じたりしてもらい、こころの教育を深めていきたいというものです。

◎竹村委員

そのような活動を行うなかで、なぜその行事を行っているのかを子どもたちに理解してもらう場はあるのでしょうか。

◎櫻井参与

はい、各学校でその活動を行うまえに、子どもたちになぜその活動をおこなうのか、な

ぜその行事があるのか、という指導していただいております。また、学校だけではなく、地域の方々にご協力を得ながら、このような学習を深めていきたいと思っております。

◎万代部会長

ほかにありますか。

◎小倉委員

「だて学」について、とても魅力的な取り組みだと思うので、「13.ふるさと創生教育の推進」のなかで、「だて学」という具体的な文言を明記したほうがよいのではないのでしょうか。

◎三浦学校教育課長

「だて学」については仮称であり、今後議論を深めていく取り組みであるため、名称が変わる可能性もあり、今回の提言書では具体的な文言は明記をいたしませんでした。

◎万代部会長

ほかにご意見ご質問はございますか。

細かい字句の修正は事務局で行うとのことでしたが、気になる点などございませんか。

「7.安全・防災教育」について、表現が天気予報のような説明分になっているので、「自然災害が多発している」といったようなあっさりした表現に変えたほうがよいのではないのでしょうか。

ほかに「11.教育・健康教育」で「学校教育における食育としては、まず給食指導が挙げられますが、だて歴史の杜食育センターが平成30年1月から供用開始されることで、現在の老朽化した調理場が抱えている施設としての課題は解消されることとなります。」と記載がありますが、提言書を提出する際にはすでに給食の供用は開始されていると思われるので、少し表現を変えたほうがよいのではないかと思います。

また、「14.異校種間連携・接続」の文章中「そのため、これらの異校種間の連携・接続を円滑にするためには、教職員間で指導方法などの交流をより効果的に行うことが必要だと考えます。」とありますが、「そのため、～」と「～するためには、～」は「ため」が重複しているため、修正する必要があると思います。

◎三浦学校教育課長

前後の文言の脈略等を確認し、整理したいと思います。

◎万代部会長

ほかにごございますか。

◎小倉委員

「15.幼児教育の充実」で「幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる大切な時期であり、この時期に学んだことが義務教育でも十分に発揮できることが必要です。」とありますが、「義務教育でも十分に～」の部分について「義務教育」に限定する話ではないため、生涯にわたるといふ趣旨に直したほうがよいと思います。

◎三浦学校教育課長

内容を見直し修正したいと思います。

◎万代部会長

ほかに、ご質問やご意見はございませんか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、学校教育分野の提言につきましては、事務局で作成した案としたいと思います。

す。本日ご意見いただいたなかで、事務局のほうで修正をお願いいたします。細かい修正点がまだまだあると思いますが、冒頭にありましたとおり、部会長、事務局に一任いただければと思います。

また、事務局より連絡がありましたとおり、1月に全体会議を開催し、それぞれの原案を議論し、そこで最終的な決定とするということでした。その際は社会教育部会についても議論をお願いいたします。

次に「(2) その他」でございますが、みなさまからなにかございますか。

[意見なし]

それでは、最後に事務局から事務連絡をお願いいたします。

◎上山企画総務係長

次回の日程については、1月24日(水)18時30分より市役所第2庁舎1階保健センター集団検診室で行いたいと思います。みなさまの出席をお願いいたします。

◎万代部会長

それでは、これをもちまして第4回学校教育部会を閉会いたします。

閉 会 (19時10分)